



この号	
What's this!?	P.1
関係者紹介	P.2
サモアコラム	P.5
トピックス	P.6
More News	P.12
今後の予定	P.13

沖縄連携による サモア水道公社維持管理能力強化 プロジェクト フェーズ2

2014年から2019年までの5年間にわたり、沖縄県内の水道事業者による技術支援を背景に、サモア国内の首都部アラオア給水区（約1.8万人）の無収水率削減を目標にCEPSOプロジェクトが実施されました。関係した長短専門家の熱心な技術移転活動は、プロジェクト目標に掲げたアラオア地区の無収水率を削減し、当初予定の目標達成に大きく貢献しました。

CEPSO1の活動経験と実績を、サモア国内2つの給水区に水平展開する要請がサモア水道公社から寄せられ、2021年8月にCEPSOフェーズ2実施が合意に至りました。プロジェクトは、2021年11月から2025年1月までの3年間、サモア水道公社地方課が所管する「フルアソウ EU 給水区」と同パイ課所管の「パラウリ給水区」を対象に無収水率の削減とサモア水道公社の内部研修体制の拡充を目標に活動中です。（次項に続く）

What's this!?



SWA にサモアミスコン来訪

8月29日、2023-2024年のミスサモアコンテスト最終選考に残ったサモア女性10名がSWAフルアソウ浄水場を訪れ、サモアの水道事情について概要説明を受けました。会場のフルアソウEU浄水場にはメディアやコンテスト関係者に加え、日ごろの水道現場を離れ、サモアミスコンを一目見ようと大勢のSWA職員らが詰め掛け、会場を盛り上げていました。日頃からおしゃべりな我が地方課スタッフの1人は、この日は口数も少なく、冗談も無く目を皿にして食い入るように見入っていました。最終選考は、9月9日の土曜日に行われ、写真右から2人目のMs. Moemoana Schwenkeさんが見事今年度のミスサモアに輝きました。実は彼女の母親も26年前にミスサモアに輝くという親子2代の快挙だそうです。
<https://www.youtube.com/watch?v=qSB9GAqTChc>



関係者紹介

John Hunt



地方課無収水班は、今年2月にチーム唯一の女性でエンジニアリングオフィサーのドルシーがニュージーランドへの移住を理由に退職しました。続く6月末には、CEPSO2のSWA側中心的カウンターパートで、無収水班エンジニアのジュリアスが退職し、家族と共にアメリカに移住しました。更に、7月末には、CEPSO2開始当初からテクニシャンとして日夜現場で活躍し、無収水班で最も若く人気者だったベンが、個人的な理由により退職しました。

今年に入り3人も中心的メンバーが相次いで離職し、残された無収水チームスタッフ4人で夜間作業や日中業務に就く日々が続く、スタッフは心身ともに疲れた様子でしたが、8月から新人のJohnがパートタイマーとして新たに加わったことで、専門家を含めスタッフ共々気持ちを新たにしているところです。新人のJohnに話を伺いました。

Q:まずはプロフィールをお願いします。これまで水道分野の経験は？

John: 2000年10月15日生まれで来月23歳になります。生まれはアピア市内です。昨年 NUS(National University of Samoa)を卒業しました。在学中は、自動車工学と管路施工について学びました。趣味は特にありませんが、たまに料理をします。特に、肉料理が好きなので自分で作って食べています。SWAには、7月の後半に採用されました。現在は、パートタイマー(臨時職員)ですが、早くアシスタントテクニシャンの職位に上がりたいと思っています。

SWA 勤務前は、市内のホテルで、施設の維持管理係として暫く務めましたが、水道管路の敷設や水道現場での管路施工については全く経験がありませんでした。

Q:SWA 応募の動機と勤務から3ヶ月経った現在の感想は？

John: 以前勤めていたホテルは、SWAのバイテレ事務所に近く、よくSWAの車両を見かけていたこともあり、水道分野に興味を抱くようになりました。元々、技術者志望であったことから水道技術者になりたいと思ったのがきっかけです。この3ヶ月間、日中夜間と管路や各種メーター類の敷設/取替工事、漏水探知、夜間水量調査など、地方課無収水班が担当する水道現場での作業に当たってきました。最初の頃は、緊張もあり思うように皆さんと話せませんでしたが、2週間程すぎたころからだんだん慣れてきて、先輩技術者の仕事を見ながら色々な事を教えてもらっています。最初の頃は、特に夜間工事の際は眠くなる事も多くありましたが、今では夜間作業も慣れてきました。

Q:今後の抱負について？

John:仕事の面では、いろんな業務経験を積んで早く先輩のような技術者になるよう自分自身を成長させたいと思っています。個人的には、お金もためながら結婚相手を探し、いい家庭を作るよう頑張ります。

今年10月の誕生日で満23歳となる我ら無収水班の新人ですが、素直で人懐っこく優しい青年です。今年に入って離職した3人の穴を埋めるには、まだしばらく時間がかかりそうですが、接していて、常に一生懸命な様子が印象に残る若者です。頑張れ青年！

関係者紹介

比嘉 元紀 水質管理、小橋川 黎 浄水場管理専門家



前列左から金城チーフ、小橋川専門家、比嘉専門家、ドミニク SWA 総裁



SWA サモア水道公社

設立:1993年
職員数:約274人
利用人口:18万人
対総人口比:89%
主水源:表流水65%、地下水35%
組織:経営課、商業課、市街課、地方課、工務課、サバイ課、下水道課、IT課
※データ出所:SWA 職員名簿(2023年5月) ANNUAL REPORT 2021-2022

7月22日から8月25日までの間、沖縄県企業局水質管理事務所の比嘉主任技師と、同じく企業局西原浄水場所属の小橋川主任のお二人が、それぞれ水質管理と浄水場管理の専門家としてプロジェクト技術移転活動に就きました。主な活動は、地方課所管でフルアソウ EU 給水区の要となるフルアソウ浄水場とサバイ課所管のパウリ浄水場の水質と浄水場の管理状況を中心に現状調査し提言に繋げました。浄水場は、それぞれ所管する地方課、市街課、サバイ課の担当チームの下で管理運用が行われており、今回は市街課が所管するアラオア、マロレイ、バイリマ、タパタパオ浄水場の状況も併せて調査し、部署の異なる担当者間で横断的に利用可能な管理マニュアルの提言となりました。ウポル島、サバイ島の全域を踏査したお二人に話を伺いました。



パウリ浄水場オペレーターからの聴取り調査

Q:初めての海外活動という事ですが、サモア SWA の水質と浄水場の管理運用状況について伺います。

比嘉:水質管理担当ですが、その内容は浄水場管理とも深い関係があることから、水源や取水地、浄水場にも足を運び現場調査を進めてきました。サモア各地の水源や浄水場を踏査しエビデンスを含め感じた事ですが、有機物、無機物も少なく原水の水質は極めて良いと言えます。

浄水場施設運用状況と運転管理については、管理方法が日本と異なるので断定的なことは言えませんが、現状を見る限り、いくつかの改善点を指摘しました。



水質管理班での研修(プリテストの様子)

小橋川:浄水場オペレーターは、浄水場の構造や仕組みについてある程度の知識やスキルがあるように思われました。緊急時の対応能力、例えば、薬中ポンプの故障や塩素切れ等の際には、浄水場の管理班長に連絡し指示を待つなどの手順を理解しており、24時間2交代で勤務に就いているとのことでした。バックアップ資機材や薬品等の補充については、その都度維持管理班から担当者が駆けつけて対応するとのことでした。



水質管理班とサンプリング同行(サバイ島)

比嘉:浄水場や深井戸から給水末端の塩素管理はデイリー、ウィークリーベースで行われており、他の金属類についてもマンスリーベースで、ウポル島サバイ島共に、工務課水質管理班によってサンプリング検査が行われています。サバイ島で、ある深井戸からの給水施設では、塩素の補充が無い、また機器の故障による末端から水が出ないなど、水質管理班から現地サバイ課の維持管理班への連絡もしばしばあるようです。

Q:どのような助言・提案をされたか？

比嘉:水質検査方法について現状を見たうえで、担当者と情報交換を通じて、検査線、標準液の作成法、SOPへの助言をしました。



水質管理班とサンプリング同行(サバイ島)

比嘉・小橋川:フルアソウやパラウリ浄水場について、緩速ろ過池の日常的なメンテナンス方法について、浄水場管理者研修実施を想定し教材(SOP)の改定や、研修企画書、評価方法案等、長期専門家と共に作成しました。

Q:これからサモアに来られる専門家に一言お願いします。

比嘉・小橋川:サモア人は明るくとてもフレンドリーです。道端歩いていても、車に乗ってても、にこやかに手を上げて挨拶してくれます。全く見ず知らずですが、、、ここにおいて感じたことは、自ら積極的にコミュニケーションを図ったほうがいいのでは、と思いました。このフレンドリーな性質？は、島嶼国に共通するものかもしれませんね。



水質/浄水場管理セミナーから

サモア入り直後から、地方課無収水チームや浄水場チーム、加えて工務課水質管理チームと積極的にコミュニケーションを図ってきたお二人ですが、チームメンバーから“ユキは今度いつ来るの？”など、今でも担当メンバーに会うたび、私に聞いてきます。強烈なインパクトと共に人気者となったお二人、最終日前日には、早朝からのフルアソウ EU 浄水場の砂掻き作業に参加しました。また来年のお越しを彼らと共にお待ちします。



水道人生初の緩速ろ過浄水場での砂掻き

【サモアのウチナンチュ+1】

Talofa lava! 「はいさい！ぐすーよー ちゅーうがなびら」

沖縄から直線距離で約8千キロ離れた南太平洋の島国サモア。これまで CEPSO プロジェクトなどでサモアに降り立ったウチナンチュは、20名余だと思えます。

2022年3月の着任時から温めていた「サモアのウチナンチュ会」でしたが、昨年8月まで続いた新型コロナによる渡航制限や会食制限などのため延び延びとなっていました。先日の9月23日に、現在サモア在住のウチナンチュ全員が揃いやっと第1回目のBBQパーティーが実現しました。

参加者は「琉球大学から国立サモア大学に留学してきた“宮平サツキ”さん」「在サモア日本大使館の理事官“西銘シンサク”さん」「バイログフィルター実証事業で滞在中の隆盛コンサルタント“古閑タケシ”さん」、そして CEPSO2プロジェクトの前川さん、私の家族です。



ゲストにはサモアの人材育成を長年支援してきている「矢崎きずな基金“能登マキコ”さん」を招きました。矢崎きずな基金ではサモアの学生を沖縄に留学させるプランを進めており、それが実現すると新たな交流の輪が広がると期待しています。宮平サツキさんは、那覇市出身で来年成人式を迎える20歳の学生ですが、沖縄県の21世紀ビジョンに掲げられた「アジア・太平洋にひらかれた島」を実現する人材になるでしょう。



そして10月9日には、バイログフィルター実証事業に取り組む沖縄のコンサルタントチーム(南西環境研究所の大城さん、隆盛コンサルタントの新城さんと金城さん)も工事の最終確認のためサモア入りし、炎天下で汗を流して頑張っていました。

Manuia le aso! 「また やーさい！」

CEPSO2チーフアドバイザー 金城進

1. サモア水道公社の経営・財務分析

8月3日、服部専門家による SWA の経営・財務分析セミナーが開催されました。背景と現状課題、分析結果から提言まで、SWA にとっては経営・財務アドバイスとして貴重な機会となったことでしょう。下記に、ご本人の要約を記します。

背景および問題点

SWA は、自身による経営努力、および CEPSCO(2014 年～2019 年)による水道事業運営能力向上支援、JICA 無償資金協力などが功を奏し、2016/2017 年期中に SWA としては始めて単年度黒字化を実現し、それ以降も単年度黒字を維持してきた。しかし、CEPSCO2開始後の第 1 次現地業務(2022 年 8～9 月)においては、SWA 職員からは、「2021 年に水道料金を値下げしたことにより、収支が悪化した」と聞かれた。



SWA マネージャークラスを対象としたセミナー

その後、第2次現地業務(2023 年1～2 月)、第 3 次現地業務(2023 年 3～4 月)においても、地方課無収水班の職員からは、「活動予算も大幅に削減され、無収水対策に支障が生じている」との声がきかれるようになった。

今回、事実関係を把握するとともに、より定量的に SWA の経営・財務情報を分析し、今後経営改善に向けて SWA が取るべき対策、および CEPSCO2 の無収水対策において取るべき対策を検討するため、調査・分析を行った。



セミナーに聞入るマネージャークラス

調査においては、まず、SWA 総裁に趣旨を説明して了解を得たうえで、企業管理課より直近10年間の財務諸表を入手するとともに、商業課マネージャーより売上・費用科目の詳細内訳等を入手した。また、これまでの料金改定の経緯、および料金請求効率(Billing Efficiency)、料金回収効率(Collection Efficiency)などのデータも入手した。これに加え、技術課からは、同期間の生産水量、使用水量、非計量顧客数(栓)、無収水量等のデータを入手した。さら

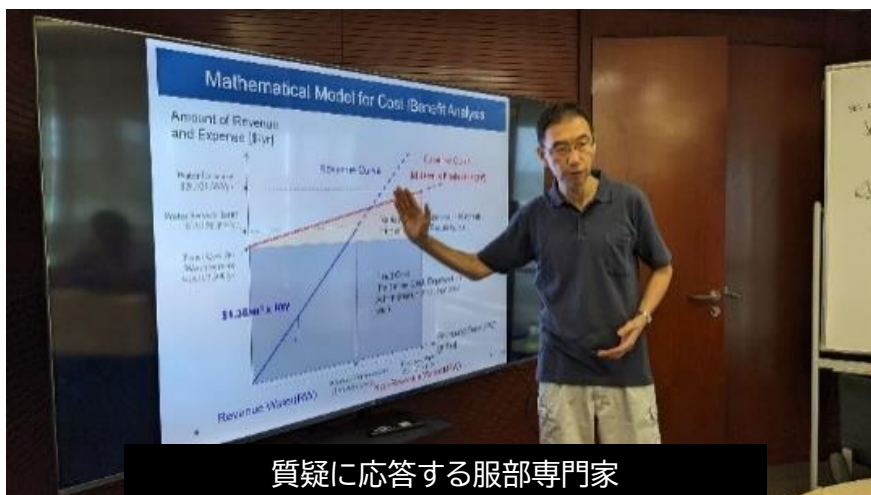
に、サモア統計局から発表された国勢調査データ等も用いて分析を行った。

分析結果および提案の要旨

- a) SWA は、2021 年 11 月の料金値下げ(20%)により年間収支が悪化。2016/2017 期より5期連続で黒字を維持していたが、2021/2022 期に赤字に逆戻りした。2022/2023 期は料金値下げの影響が通年を通して現れるため、さらに収支が悪化することが予想されている。今後、SWA は水道事業経営の基本である「独立採算制」を実現するため、収入増加、支出削減を図なければならない。
- b) 収入増加にむけて SWA が取るべき対策は以下のとおりである。
- (ア) SWA は水道料金を、2021 年 11 月料金値下げ前のレベルまで戻すことが必要である。(政府系利用者は 2023 年 7 月から、商業利用者は 2023 年 11 月から、従前の水道料金に戻す計画があるなど、既にその動きは出ている。)
 - (イ) (収益の7割を占める「水道料金収入」に関して)請求効率(Billing Efficiency)や料金徴収効率(Collection Efficiency)は、現状、それぞれ 99%超、98%超と高い水準にある。今後もその維持・向上に努めることが重要であるが、伸び代は小さい。
 - (ウ) 商業的損失である「Customer meter inaccuracy(水道メーターの計量誤差)」を削減することは、収入増加に結びつくことが期待されるそのため、老朽化した水道(顧客)メーターの交換をフルアソウ EU、パラウリの両給水区で実施することが肝要である。具体的な老朽メーターの数量とその更新費用を示した。
- c) 支出削減に向け、費用対効果の高い無収水対策を実施する必要がある。
- (ア) CEPSO チーム(高良専門家)が作成支援した無収水モニタリングシートを用いて、DMA 毎の無収水量を把握し、多い順に対策を実施することが重要である。地方課のデータを用いて、具体例を示した。
 - (イ) 漏水量が多い DMA または DMA 内サブゾーンにおいては、日常的な漏水探知・漏水修繕(=対症療法的対策)に加え、漏水量が最も多い老朽管路を特定し、更新・改良(=予防的対策)する必要がある。その際、費用対効果を考慮して、対象管路を選定することが重要である。具体的方法を市街課のデータを用いて示した(パイバック期間を用いた比較)。
 - (ウ) SWA の水道事業に係る年間費用(26,921,381WST/年)は、固定費(人件費、減価償却費、販管費等 18,103,500WST/年)と変動費(O&M 費 8,817,881WST/年)に分割できるが、このうち変動費部分が無収水(物理的損失)対策で削減できる。その効果は、年間生産水量(25,811,575m³)で除した「変動費単価」0.34WST/m³×削減水量(m³)として計算できる。



セミナーに間入るマネージャークラス



質疑に応答する服部専門家

費等 18,103,500WST/年)と変動費(O&M 費 8,817,881WST/年)に分割できるが、このうち変動費部分が無収水(物理的損失)対策で削減できる。その効果は、年間生産水量(25,811,575m³)で除した「変動費単価」0.34WST/m³×削減水量(m³)として計算できる。

2. SWA 地方課 NRW チームの業務その 5

【DMA11 PRV(減圧弁)設置】

8月2日深夜から翌早朝にかけて、フルアソウ EU 給水区内の DMA11 で比較的大掛な減圧弁の設置工事が行われました。先の高良専門家の NRW モニタリングシートによると、フルアソウ EU 給水区内で最も無収水率が高いとされる DMA は、DMA10 及び DMA12 であることが明らかになり、この2つの DMA 内の無収水率がフルアソウ EU 全体の無収水率の 70% 程を占めることがデータで示されました。

地方課 NRW チームでは、この2つの DMA 内の夜間流量調査や漏水探知を優先して進めていたところ、ウポル島西側の広域をカバーする DMA11 内でサブメイン(配水支管)や給水管からの漏水が報告され、各地点調査(水圧測定)の結果、急遽一部地域の配水本管(PVC200mm)に減圧弁を設置することになりました。

現場では、日中に現場周辺を掘削し管路を露出させた後に、深夜に工事を開始するという段取りで進められました。工事では、エンジニアリングオフィサーの NEPA が指揮を執り、NRW チームの Joseph と Kalepo が管路切断を担当し、排水ポンプを新人の John が担当、NRW チーム唯一のベテラン女性 Rita は、地方課維持管理チームと共に、止水弁、減圧弁、エアバルブ、止水弁の連結作業に当たり、5人の NRW チームメンバー総出で対応しました。

減圧弁他の連結が完了し配水池からの給水を確認し、減圧弁による圧力管理が確認されたのは午前5時を過ぎた頃でしたが、9時には全員がオフィスに揃っていました。

お疲れ！



※作業工程は、YouTube サイトでご覧いただけます。<https://www.youtube.com/@swaceps02>

3.SWA 地方課 NRW チームの業務その 6

【DMA12 夜間漏水調査】



深夜漏水踏査する無収水チーム



探知機による調査



家庭用サービス管の亀裂漏水



漏水箇所マーキング

フルアソウEU給水区内で最も無収水率が高いとされるのは、DMA10とDMA12ですが、8月2日深夜、DMA12において夜間漏水調査を実施しました。

地方課無収水チームでは、毎週月曜から水曜の深夜0時以降、漏水の有無を判断するデータ収集を目的に夜間の水量調査を実施しています。

この日は、前の週に夜間水量調査を終えた域内の1.5キロ程を、徒歩による漏水調査を実施しました。音調棒や漏水探知機を使った調査でしたが、目視で確認できる漏水箇所を4カ所ほど発見しました。

村の道路から更に奥に住居が点在する現場は、真っ暗ななか、街灯も殆どなく、番犬がけたたましく吠えまくる中で、小型携帯ライトを頼りに調査は進められます。夜間漏水調査に同行した最初の頃は、真っ暗な村道で不審者、部外者に吠えまくる犬軍団に怯えていましたが、今ではすっかり慣れてしまいました。

発見した漏水箇所は、道路上にスプレーでマーキングをしたのち、翌朝に地方課維持管理班に報告し、漏水修理などの工事が行われる段取りです。漏水力所にもよりますが、メーター周りの漏水であれば無収水チームで即座に修理が行われます。

※作業工程は、YouTube サイトでご覧いただけます。<https://www.youtube.com/@swaceps02>

4.SWA 内部指導者研修

NRW インストラクターグループセミナー

TOTワークショップPart2では、これまでのTOT対象者に加え、新たに内部の指導者として期待される職員も含め、業務毎に5つのグループに分けたうえで、それぞれグループごとにセッションやワークショップを実施しています。

9月6日、地方課無収水チーム事務所において、“NRWグループセッション”を服部専門家の呼びかけで実施しました。セッションには、NRWに直接関係する部署として、市街課、地方課、サバイ課それぞれの無収水班と維持管理班、商業課の料金班とメーター検針班に加えて、今後、SWA内部の研修監理を担うとされる総務課担当(将来的には研修監理班を設置し所管予定との由、総務部談)が参加しました。

セッションでは、世界水道協会の Water Balance Table を用いて、無収水(NRW:Non-Revenue Water)と有収水(Revenue Water)のそれぞれのコンポーネントを示し詳細が解説されました。具体的には、物理的な配水/給水管路の破損や管路接合の不良等による漏水に加え、メーター不感、メーター読違いや記載ミスや入力ミスなどのヒューマンエラーが無収水の要素となる事例を紹介し、その対策が示されました。

市街課、地方課、サバイ課及び商業課の担当職員からなるNRW研修担当グループでは、9月中に研修計画書(シラバス)、必要な教材や評価手段を準備し来年1月から関係職員を対象とした内部研修が開始される予定です。一方、WTPグループも9月20日にグループセッションを開催、今年中に関係職員を対象とした内部研修が実施される見込みです。



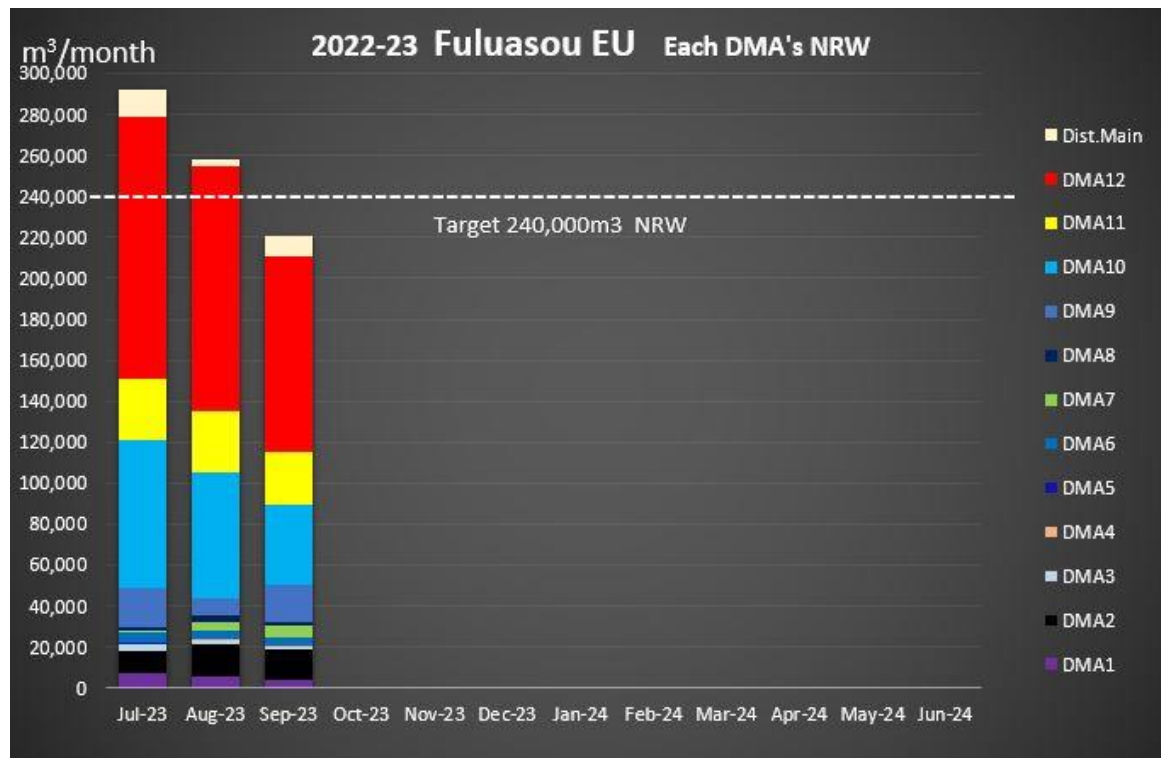
NRW 指導者グループ

TOT In-house Training Group and Instructor Teams						as of 27th SEP, 2023
Groupe	Covering Field	Instructor				
		Divison	Name	Position	e-mail	
NRW	DMA Designing Leak Survey / Detection Flow/Pressure Control Pipe repair and replacement Meeter Reading & Billing Dead Recovery (Disco/ Recon, management)	Urban	Semi	Engneer	Semi.Lesa@swa.gov.ws	
		Urban	Vagana	Engineer	Sitivi.Faaea@swa.gov.ws	
		Urban	Kaiser	E.O	kaiser.sesega@swa.gov.ws	
		Urban	Ola	E.O	Olaifale.Pili@swa.gov.ws	
		Rural	Wellesly	Engineer	wellesly.vaa@swa.gov.ws	
		Rural	Nepa	E.O	Nepa.Bourne@swa.gov.ws	
		Rural	Joseph	S.T	Joseph.Manu@swa.gov.ws	
		Savaai	Sio	E.O	Sio.Papalii@swa.gov.ws	
		Savaai	Steven	S.T	steven.lemalu@swa.gov.ws	
		Savaai	Fateaia	T.L	fateaia.tofia@swa.gov.ws	
		Com,	Tova	T.L	Tovaleinuupule.Sua@swa.gov.ws	
		Com,	Saitlofia	E.O	Saitlofia.Puipuaia@swa.gov.ws	
		Com,	Farani	T.L	farani.lene@swa.gov.ws	
WTP	Daily Operartion URF/SSF Maintenance	Urban	Mark	E.O	Mark.Tanuvasa@swa.gov.ws	
		Urban	Arthur	E.O	Arthur.Fesili@swa.gov.ws	
		Urban	Vagana	Engneer	Sitivi.Faaea@swa.gov.ws	
		Urban	Sebastian	T.L	sebastian.meafou@swa.gov.ws	
		Urban	Selepa	T.L	seepa.toafa@swa.gov.ws	
		Rural	Wellesly	Engineer	wellesly.vaa@swa.gov.ws	
		Rural	Ramosa	E.O	LMS.Titimaea@swa.gov.ws	
		Savaai	Sio	E.O	Sio.Papalii@swa.gov.ws	
Savaai	Viky	S.T	wiki.manupo@swa.gov.ws			
WQ	Daily/Weekly/Monthly Monitoring Sampling Water Water Qualities Test	Tech	Pafuti	E.S	Pafuti.Miller@swa.gov.ws	
GIS	System Operation Application Usage	ICT	Eti	E.O	Eti.Laulala@swa.gov.ws	
HR/Training?	Compile and Conducting In-house Training	CORP				

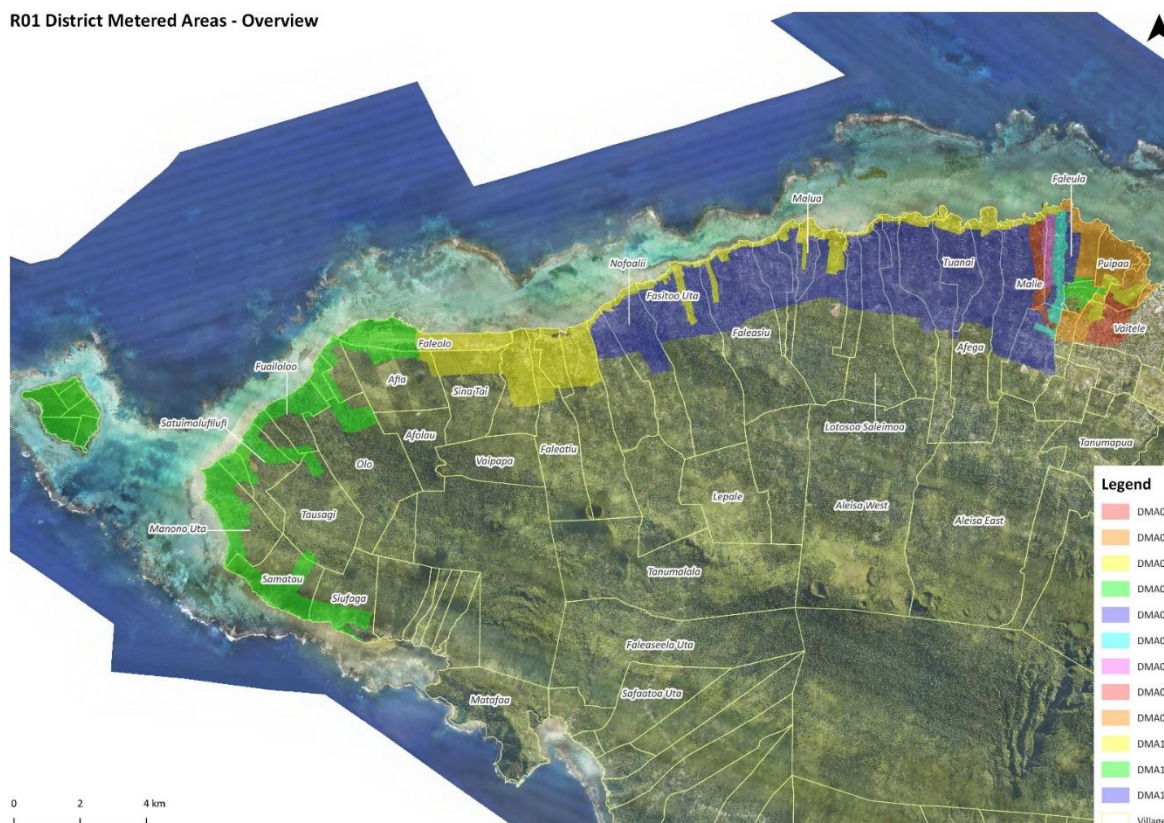
5.SWA 地方課 フルアソウ EU 給水区9月時点の無収水量

【DMA 毎の無収水率の視覚化】

フルアソウ EU 給水区では DMA1~12 について、それぞれ DMA 毎の無収水量を視覚化できるようになりました。全体的な無収水量については、減少傾向にあることがこのグラフから明らかですが、DMA10と DMA12 の2つのブロックは、依然としてフルアソウ EU 全体の無収水量の2/3を占めることがデータの収集・分析から明らかです。8月以降、アタックポイントを DMA12 に絞っていますでしたが、9月、10月に緊急対応として別の給水区での漏水が頻発したことから、DMA12 に労力を割けていない状況が続きましたが、10月中旬には再び DMA12 を集中的にアタックする予定です。



R01 District Metered Areas - Overview



More News

【第5回自治体連絡協議会】

9月27日、沖縄県庁企業局会議室にて第5回自治体連絡協議会が開催されました。CEPSO2では、プロジェクト準備段階から同協議会を開催していますが、一部オンライン参加を含め、関係者が一同に会して対面による協議会の開催は初めてとなりました。ご出席頂いた沖縄県水道事業体はじめ関係者の皆さんからは、対面での協議会に加え、沖縄県企業局の水道施設視察、後の懇親会と充実したプログラムに“沖縄連携”の想いを強くしたとの声を頂きました。

プログラムにご協力頂きました沖縄県企業局の皆様はじめ、諸事調整を担った JICA 沖縄関係者には、この場をお借りして感謝申し上げます。引き続きご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します！



対面協議による自治体連絡協議会（沖縄県企業局会議室にて）



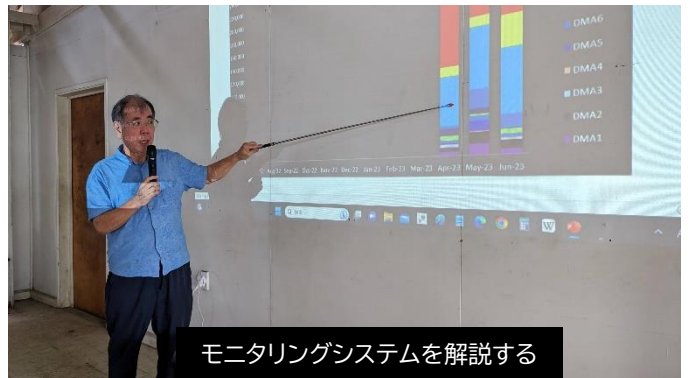
北谷浄水場海水淡水化施設視察

【高良専門家による NRW モニタリングセミナー】

7月27日、帰国直前に高良専門家による NRW モニタリングセミナーを開催しました。エクセルシートを活用した NRW モニタリングシステムは、地方課無収水班が毎月1日に測定する DMA 毎の月間供給(生産)水量と、商業課料金請求班による DMA 毎の顧客検針データ(使用水量)を基に、DMA 毎に毎月の無収水率を算出するシステムで、無収水率の高い DMA を特定し、次のステップである漏水対策に繋げる事を狙いとしています。セミナーは、各マネージャークラスや NRW 担当者が参加し多くの質問が上がっていました。地方課、市街課、サバイ課では、同じモニタリングシートを用いて SWA の NRW 削減対策に用いることとなります。



セミナーに参加した SWA 幹部職員



モニタリングシステムを解説する

【プロジェクト中間評価コンサル】

10月13日、プロジェクト中間評価のため評価コンサルタントの杉本さんがサモア入りしました。16日から SWA 本部総裁はじめマネージャークラスと面会し、中間評価に向けてのインタビューを精力的に実施しています。写真は、SWA 地方課我らがボスのセビリオマネージャーとのインタビュー。ボスは、インタビューを前に事前に記入依頼のあった questionnaire の設問数の多さに驚きの表情で、CEPSO 執務室に飛び込んできましたが、何とか終えたようでした。杉本さんは、今月いっぱい滞在の予定です。



中間評価コンサルタント 杉本さん



インタビューに応えるセビリオマネージャー

今後の予定

10月

- ・中間評価コンサルタント調査 10/13～11/6
- ・名護市環境水道部／名護市管工事協同組合専門家着任 10/20～12/1
- ・パラウリ WSS 漏水調査とモニタリング
- ・フルアソウ EU 漏水調査とモニタリング
- ・専門家セミナー/TOT ワークショップ
- ・NRW-GIS グループ会議

11月

- ・中間評価調/JCC ミーティング
- ・プロジェクト進捗報告会(担当者レベル)
- ・パラウリ WSS 漏水調査とモニタリング
- ・フルアソウ EU 漏水調査とモニタリング
- ・NRW-GIS グループ会議
- ・金城／有銘専門家セミナーワークショップ
- ・SWA 浄水場管理内部研修
- ・その他

12月

- ・プロジェクト進捗報告(マネージャークラス)
- ・TOT ワークショップ In-House Training
- ・パラウリ WSS 漏水調査とモニタリング
- ・フルアソウ EU 漏水調査とモニタリング
- ・NRW-GIS グループ会議
- ・SWA-GIS 運用内部研修
- ・その他

次号掲載予定

- ・関係者紹介
- ・トピックス
- ・プロジェクト進捗
- ・その他

問い合わせ

このプロジェクトに関する、ご感想・ご質問等ございましたら、下記メールアドレスまでお寄せください。

CEPSO2 プロジェクト
e-mail:
swa.cepso2@gmail.com

電話:
685-721-0024
685-721-0026



編集後記:7月-9月にかけてプロジェクトには、高良専門家をはじめ、大濱専門家、服部専門家、沖縄県企業局から比嘉、小橋川専門家が着任しそれぞれの持ち場で精力的な活動に当たってきました。10月-12月には、中間評価、JCC ミーティング、名護市からの短期専門家と内部研修実施への助言など多忙な予感がしています。引続き宜しくご支援いただければ幸いです。

※YOUTUBE チャンネルもご視聴ください。
[HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/@SWACEPSO2](https://www.youtube.com/@SWACEPSO2)